

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	戦時・戦後期における啓蒙運動とメディア				
研究組織	代表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	森山 優
	研究分担者	所属・職名	国際関係学部・准教授	氏名	鈴木 さやか
		所属・職名	静岡県近代史研究会・会員	氏名	北原 勤
		所属・職名	静岡県近代史研究会・会員等	氏名	山本 誠ほか2名
	発表者	所属・職名	国際関係学部・教授	氏名	森山 優

講演題目	本学図書館所蔵「浦上史料」紙芝居と、当該期の「音文化」について
研究の目的、成果及び今後の展望	<p>本研究は、昭和初期から戦後にかけて爆発的に流行した紙芝居を、メディア史、政治史、地域史等のさまざまな観点から再検討し、新たな位置づけを試みるものである。</p> <p>今年度は、1月に実施予定だったオランダ・アムステルダム の NIOD Instituut voor Oorlogs-, Holocaust- en Genocidestudies に保存されている戦時期蘭印（オランダ領東インド、現インドネシア）の紙芝居調査（神奈川大学常民文化研究所非文字資料研究センター紙芝居班との共同）に重点を置いていたが、搭乗した航空機（KLM）がエンジントラブルのため離陸できず、調査を中止せざるを得なかった。</p> <p>このため、急きょ文献収集と国内調査にシフトし、さまざまな表現形態（歌謡曲・オーケストラ・映画館等）における諸問題を検討した。</p> <p>例を挙げれば、柴田康太郎『映画館に鳴り響いた音』（第46回サントリー学芸賞受賞）という「音文化」という概念の検討、現実にイギリスのオデオン座で演奏されていたオルガンの録音（78回転盤をCDに復刻した）盤の購入、戦後一世を風靡した村田英雄の記念館における表象のあり方、いわば座付きオーケストラであった羽衣管弦楽団の楽譜を継承した九大フィルハーモニー会の楽譜群等々、紙芝居が全盛期を迎えた時期の「音文化」について、幅広く知見を深めることができた。来年度以降は（研究費が採択されれば）、このような観点から紙芝居を文化的に捉え直す試みを展開する予定である。</p>